

# 国際環境工学研究科 環境システム専攻 環境生態システムコース 修了認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

国際環境工学研究科環境システム専攻環境生態システムコース（博士前期課程）は、以下の能力を有すると認めた者に修士（工学）、修士（学術）または修士（環境マネジメント）の学位を授与します。

## ■ 高度な専門的知識・技能

- 環境調査、環境計画、生態系管理の基礎となる自然科学及び数理分野の専門的学力を有し、環境社会や自然共生社会の構築に寄与できる創造的・実践的知識を持つ。
- 社会・環境フィールド調査、環境シミュレーション、環境マネジメントに関わる専門的技能・手法を使って問題を解決する能力を持つ。

## ■ 高い問題解決能力と表現力

- 現実の環境問題に柔軟に対応し、地域や日本国内のみならず国際環境社会の中で広い視野をもって問題に対処できる思考力と判断力を持つ。

## ■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

- 環境問題に関わる資源、エネルギー、自然生態系、経済、経営などの分野にも関心を持ち、高度な研究を実践する意欲を持つ。
- 地域や企業、行政など関係する機関と協力して環境問題の解決に自律的に取り組むことができる。

# 国際環境工学研究科 環境システム専攻 環境生態システムコース 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

国際環境工学研究科環境システム専攻環境生態システムコース（博士前期課程）では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

## 教育課程の編成

### （編成の方針）

- 1 環境生態システムコースは、生命科学、環境科学、環境マネジメント学に関する知識及び環境生命分野の実験・調査、数理解析等を行うことにより、技術開発に必要なスキルを修得するとともに、自律的・継続的に学ぶ意欲を持ち、技術が社会に及ぼす影響をふまえた社会的責任と倫理観のもと、問題解決に向けて積極的・主体的に行動する力を身につけることを目指して、教育課程を編成する。
- 2 教育課程は、生命科学、環境科学、環境マネジメント学の視点から論理的に考察する力、及びコミュニケーション力を育成しつつ、自身の考えや判断を効果的に表現できる力を養成するため、共通して備えておくべき能力を養成するための共通科目、専門分野の知識やスキルを補填するための基礎科目、専門知識を修得するための専門科目、及び特別研究科目で編成する。

### （教育課程の構成）

※()は修了に必要な最低単位数で、修了要件単位数 30 単位の内訳  
環境生態システムコースの教育課程は、編成の方針に基づき、「共通科目」・「基礎科目」(4)と「専門科目」(18)と「特別研究科目」(8)で構成する。

- 1)「共通科目」・「基礎科目」(4)は、自然科学及び数理的分野に関する基礎学力や研究する際に必要となる境界領域的な知識を修得するための基礎科目群である。全ての科目を選択科目とし、共通科目から少なくとも 2 単位以上を修得する。
- 2)「専門科目」(18)は、環境社会や自然共生社会の構築に寄与できる創造的・実践的知識を持ち、現実の環境問題に柔軟に対応し、地域や日本国内のみならず国際環境社会の中で広い視野をもって問題に対処できる技術者及び研究者を養成するため、知的基盤を確立するための講義系科目、論理的な思考や判断のプロセスを構築するための演習系科目、及び実験系科目を配置する。全ての科目を選択科目とし、所属するコースの提供科目から少なくとも 14 単位以上を修得する。
- 3)「特別研究科目」(8)は、研究能力や高度な専門技術を身につけるために直接、個別指導を受ける必修の科目区分とする。

## 教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。

- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習 (PBL)、グループワーク、プレゼンテーションなど、能動的学習 (アクティブ・ラーニング) の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。

## 学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認められた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 修了するためには、所定の科目を含めた 30 単位以上の修得、必要な研究指導を受けた上で、学位請求論文等の提出を必要とする。
- ・ 学生に授業評価アンケート等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望、及び学修達成状況等を把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。

# 国際環境工学研究科 環境システム専攻 環境生態システムコース 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

国際環境工学研究科環境システム専攻環境生態システムコース(博士前期課程)は、次のような人を求めます。

## 求める学生像

- 地域やアジア諸国をはじめとする発展途上国における環境社会システム構築のために活躍できる高度専門職業人および研究者を目指している人
- 持続可能な社会構築のため高度な専門的知識の習得を目指している人

## 求める能力

### 【知識・技能】

- ・ 環境調査、環境計画、生態系管理の基礎となる自然科学および数理分野の基礎的学力を有し、環境社会や自然共生社会の構築に寄与できる創造的・実践的知識の素養を持っている。
- ・ 社会・環境フィールド調査、環境シミュレーション、環境マネジメントに関わる専門的スキル・手法を使って問題を解決する能力の素養を持っている。
- ・ 日本語あるいは英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。

### 【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 現実の環境問題に柔軟に対応し、地域・国土のみならず国際環境社会の中で広い視野をもって問題に対処できる思考力と判断力の素養を持っている。

### 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

- ・ 環境問題に関わる資源、エネルギー、自然生態系、経済、経営などの分野にも関心を持ち、高度な研究を実践する素養を持っている。
- ・ 地域や企業、行政など関係する機関と協力して環境問題の解決に自律的に取り組む素養を持っている。